



公共交通シンポジウム

公共交通空間をどう作っていくか

2017年9月22日

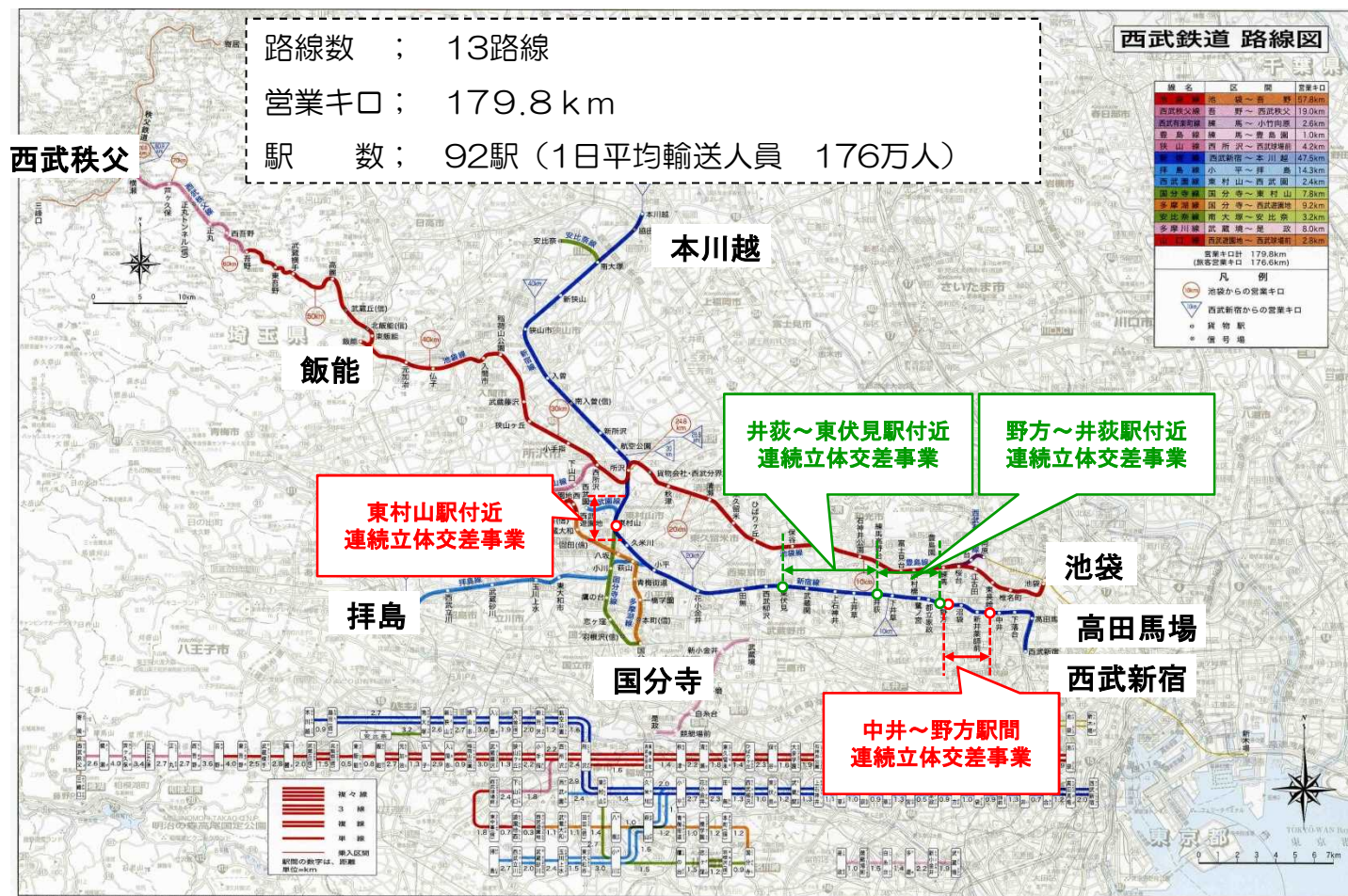
西武鉄道株式会社

鉄道本部 建設部 陰山 健司

Seibu Group
でかける人を、ほほえむ人へ。

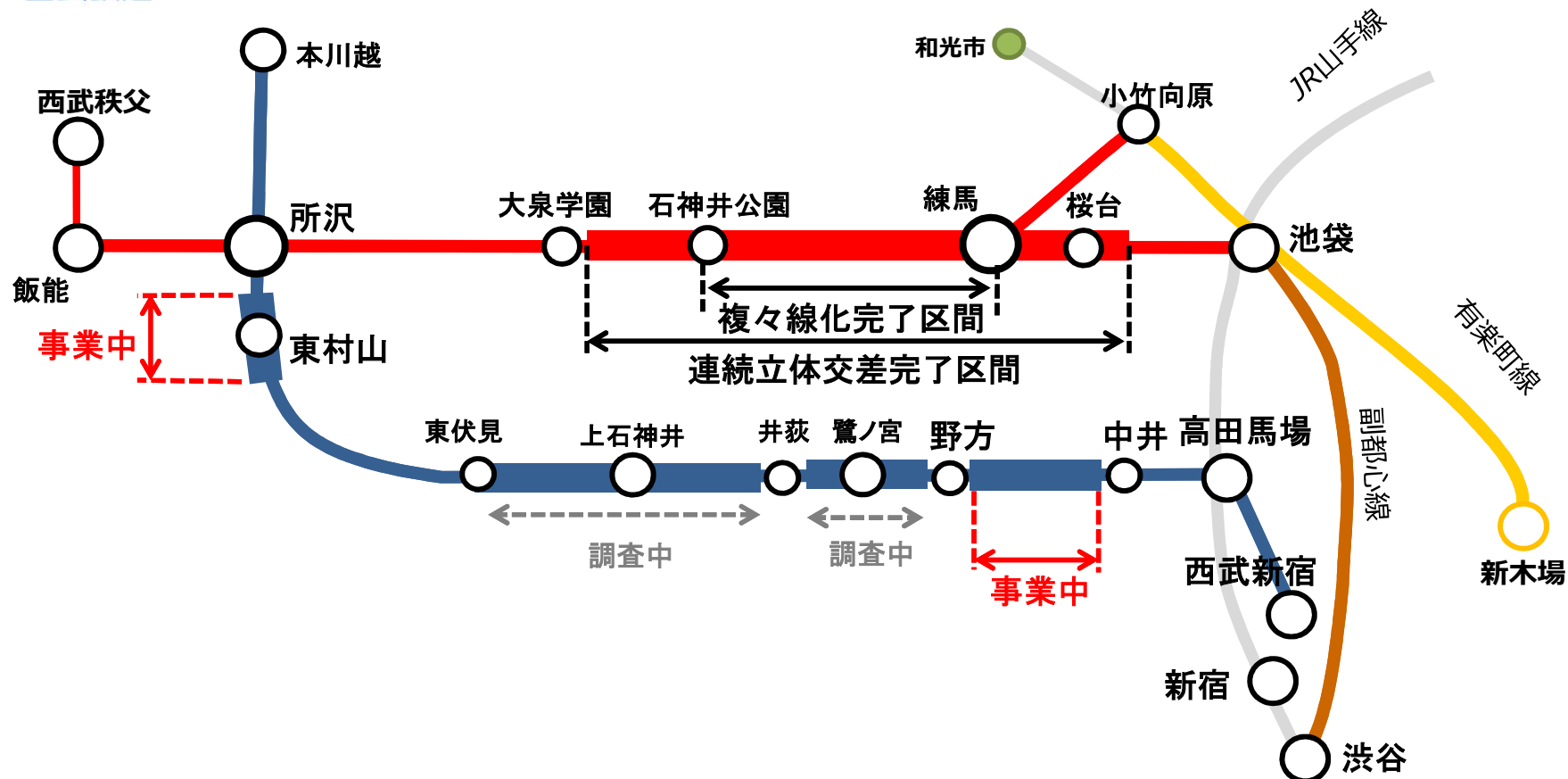


西武鉄道の沿線略図





当社における連立事業



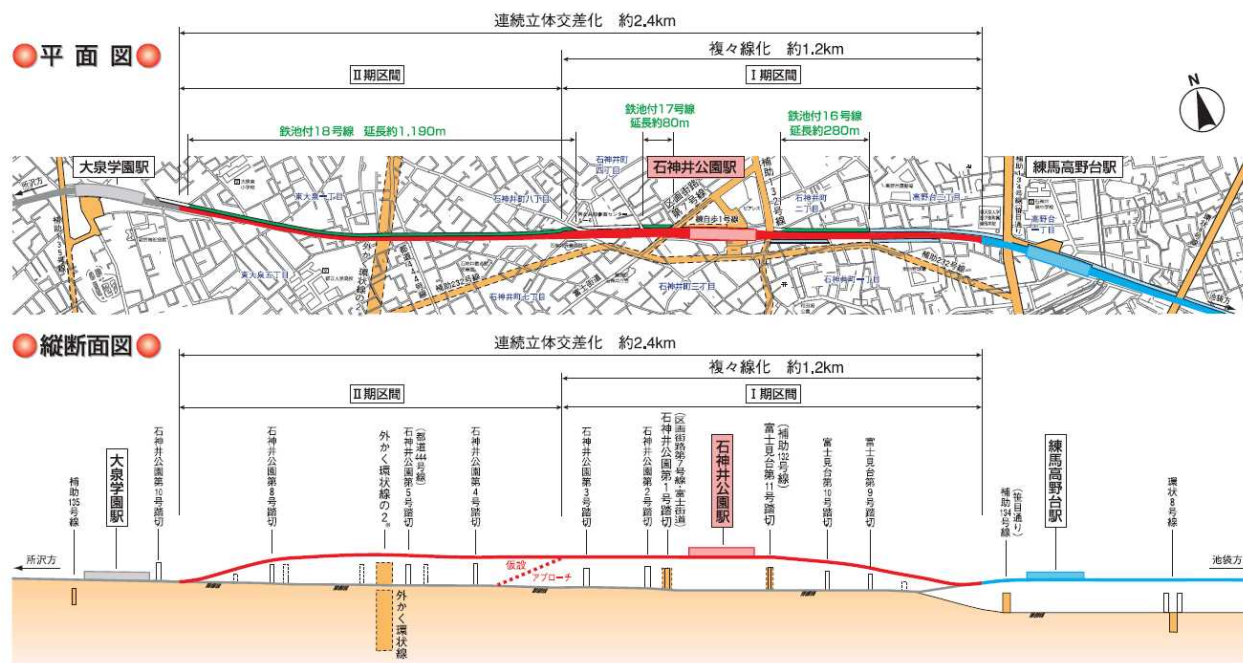


事業完了した連立事業



石神井公園駅付近連続立体交差事業

1. 事業延長 約2.4km（複々線：1.2km、複線：1.2km）
2. 踏切除却 9箇所
3. 工期 2007年度～2016年度
4. 事業費 総事業費 509億円





石神井公園駅付近 周辺状況

◆石神井公園駅立体化



高架化前



高架化後

◆踏切渋滞の解消



高架化前



高架化後

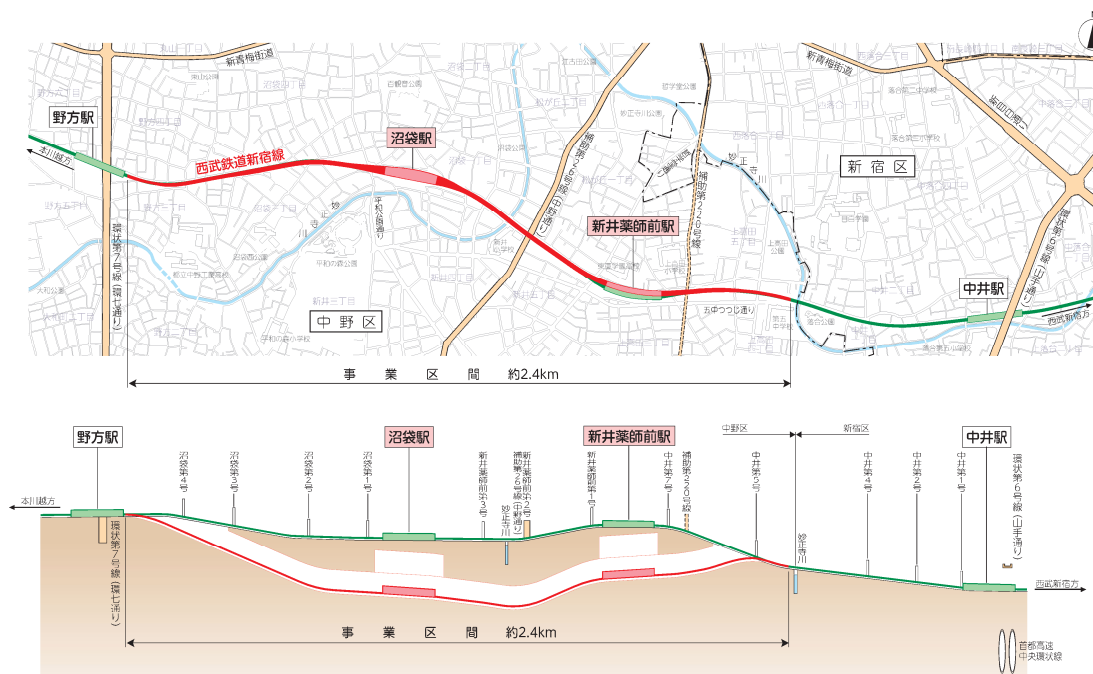


事業中の連立事業



中井～野方駅間連続立体交差事業

1. 事業延長 約2.4km
2. 踏切除却 7箇所
3. 工期 2013年度～2020年度
4. 事業費 総事業費 726億円





西武鉄道

東村山駅付近連続立体交差事業

1. 事業延長 約4.5km（新宿線2.3km、国分寺線0.8km、西武園線1.4km）
2. 踏切除却 5箇所
3. 工期 2013年度～2024年度
4. 事業費 総事業費 714億円

●平面図●



西武鉄道かわら版

◆中井～野方駅間連続立体交差事業 現在の工事の進捗状況をお知らせします。

現在、中井方および新井薬師前駅部では土留工事※1を、沼袋駅部では施工ヤードの整備を進めるとともに土留工事を、野方方では土留工事および軌道仮受杭※2の打設工事を進めています。今後は中井方では土留工事および軌道仮受杭の打設工事を、新井薬師前駅部・沼袋駅部および野方方では引き続きそれぞれ同工種の作業を進めていきます。

※1 地盤の変形と地下水の流入を防止するための工事
※2 線路下を掘削する際、現在の線路を仮受けるための杭



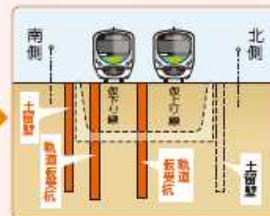
中井方 土留工事



沼袋駅部 土留工事



野方方 軌道仮受杭打設工事



野方方 施工断面図(イメージ)

西武鉄道新宿線(中井～野方駅間)連続立体交差事業は、東京都が事業主体となり、道路整備の一環として進めている都市計画事業であり、西武鉄道は、東京都・中野区とともに事業を推進しています。

◆東村山駅付近連続立体交差事業 現在の工事の進捗状況をお知らせします。

土木工事では、東村山駅構内において仮設地下通路の構築を進めるにあたり、軌道を仮受けする工事桁を架設しました。また、高架橋の基礎杭の施工を線路脇で進めています。新宿線久米川～東村山駅間および西武園線東村山～西武園駅間では、仮囲いおよび線路防護柵の設置を進めています。

軌道工事・電力工事・信号通信工事では、駅部において工事に支障する線路設備の撤去および移設を進めています。今後も引き続き、同工種の作業を進めていきます。



工事桁 施工状況



高架橋基礎杭 施工状況



新宿線 仮囲いおよび線路防護柵 施工状況

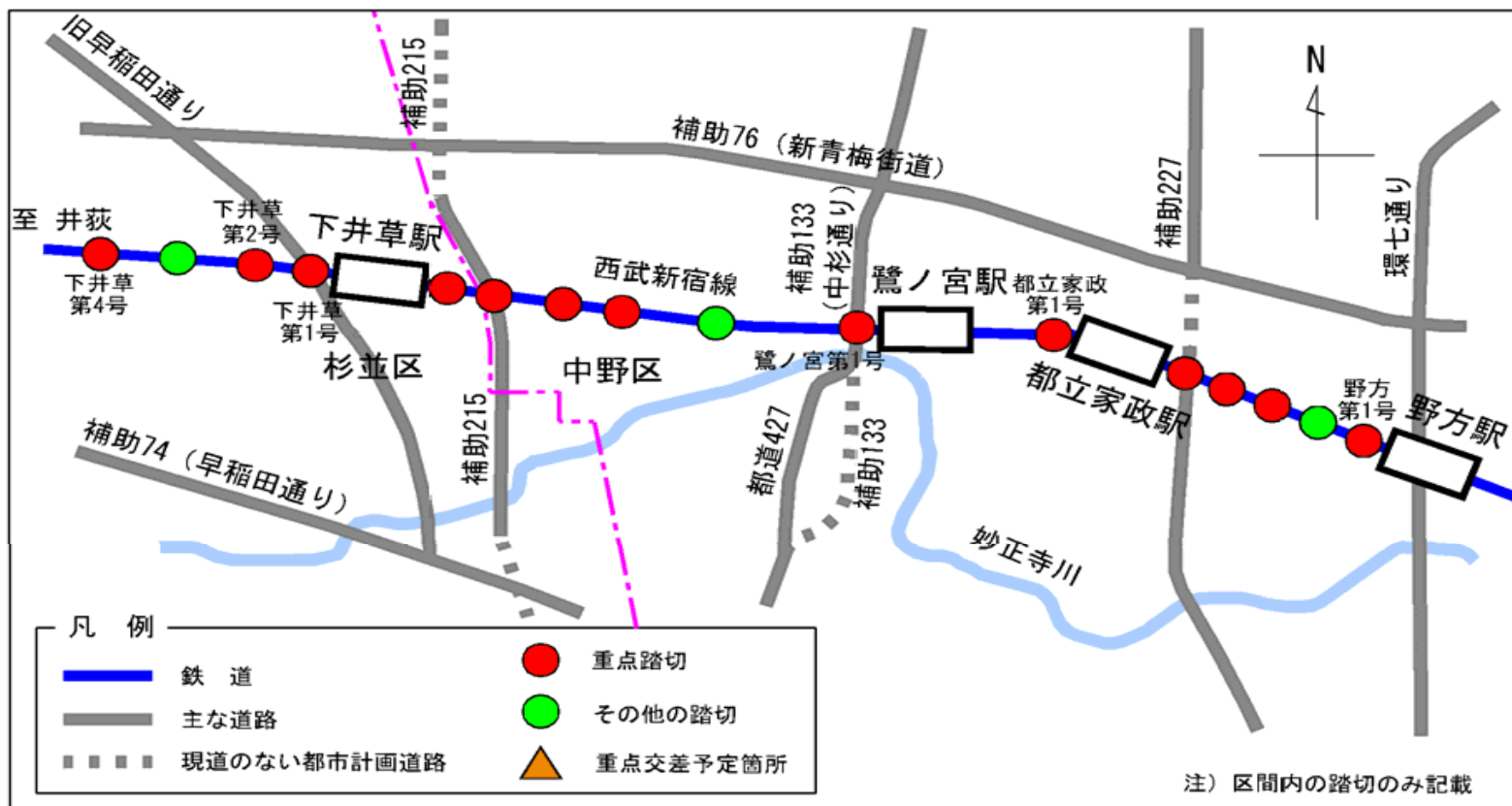


西武園線 仮囲いおよび線路防護柵 施工状況

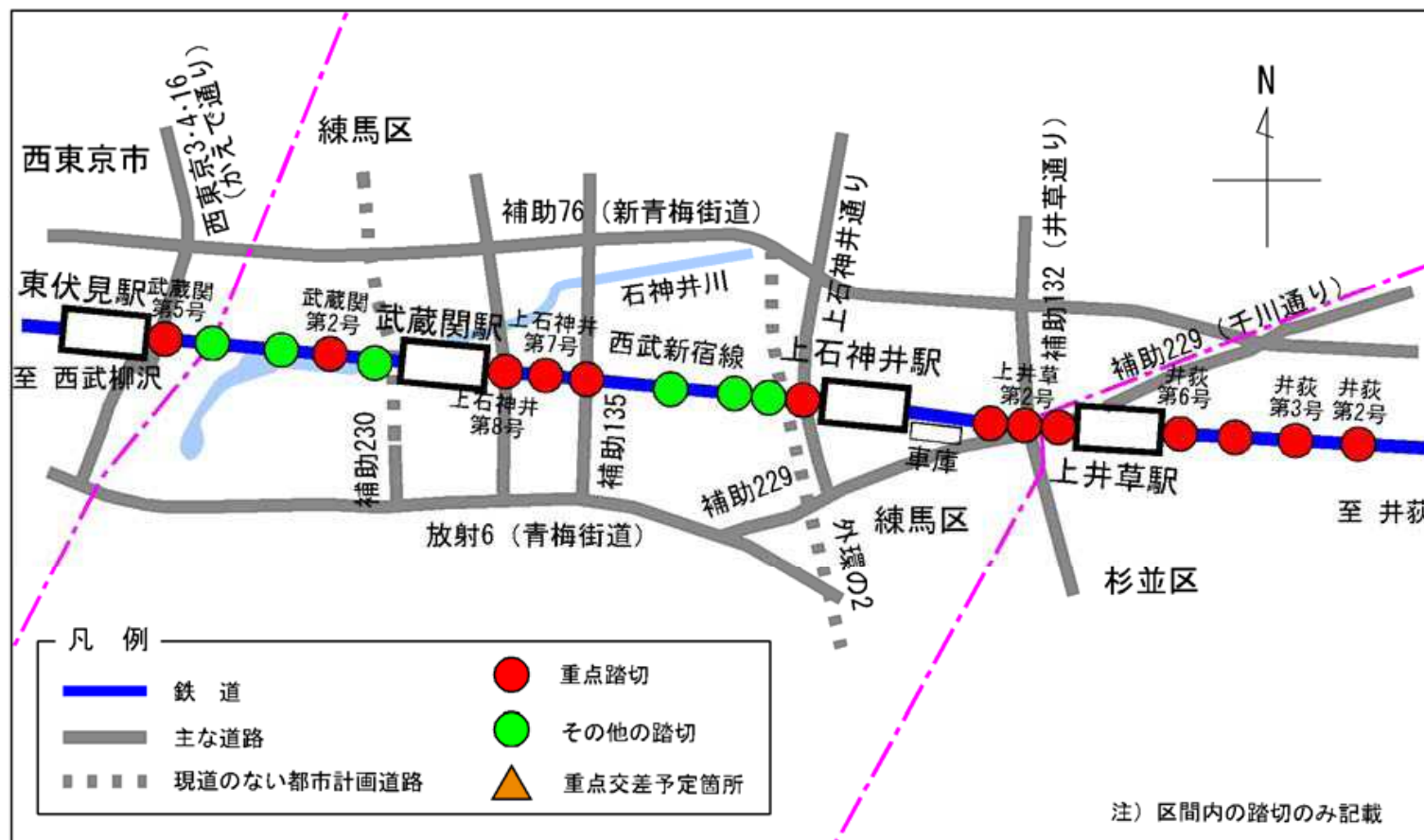
西武鉄道新宿線、国分寺線および西武園線(東村山駅付近)連続立体交差事業は、東京都が事業主体となり、道路整備の一環として進めている都市計画事業であり、西武鉄道は、東京都・東村山市とともに事業を推進しています。

調査中の連立事業 (着工準備採択区間)

野方~井荻駅付近



井荻~東伏見駅付近





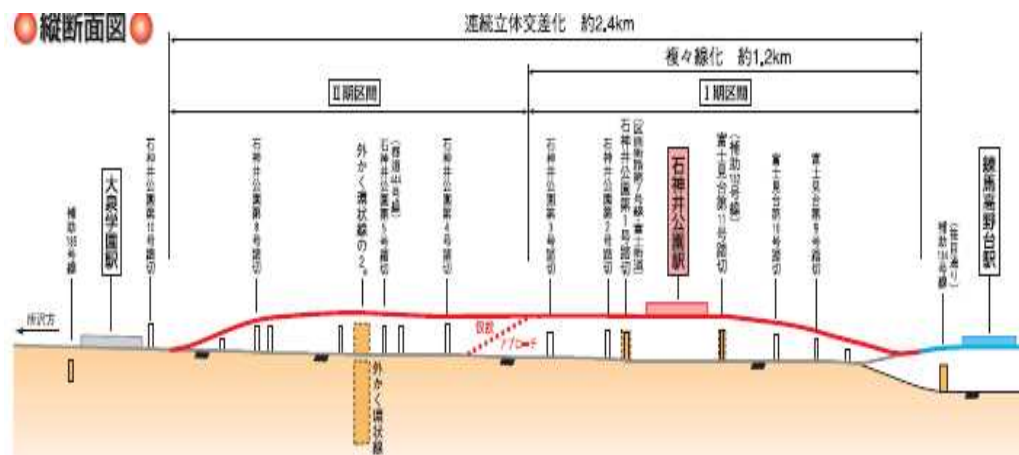
Seibu Group
でかける人を、ほほえむ人へ。



事例1（池袋線 石神井公園駅）

西武鉄道 石神井公園駅付近連続立体交差化事業により9箇所の踏切を除却（2015年1月）併せて、高架下に南口駅前広場を整備し、北口広場と接続。

1971年より行ってきた池袋線の線増連続立体交差化事業（桜台～大泉学園間7.6km、除却踏切28か所）が全て完成。





事例1（池袋線 石神井公園駅）

東京都、練馬区と協議し、新たな改札の設置や高架下に観光案内所、駐輪場等の行政施設や賑わい創出として「エミナード石神井公園」を整備（2016年駅乗降人員 79,048人）

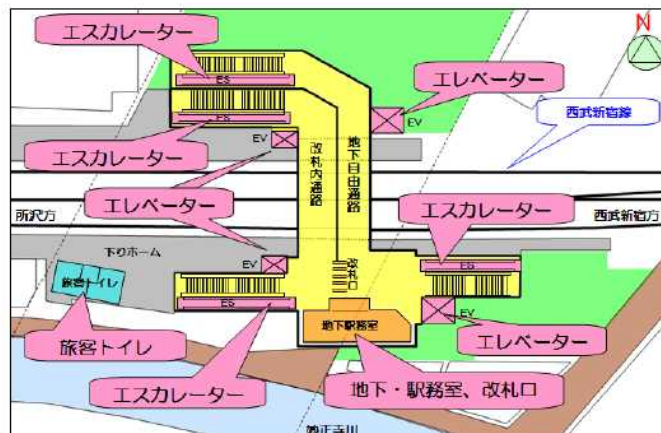




事例2(新宿線 中井駅)

国の社会資本整備総合交付金を活用し、東京都、新宿区との協議により、駅舎の地下化や南北自由通路整備を実施(2016年度)

併せて地元要望の強かった北口新設や駅バリアフリー化を実施
(2016年乗降人員 27,941人)

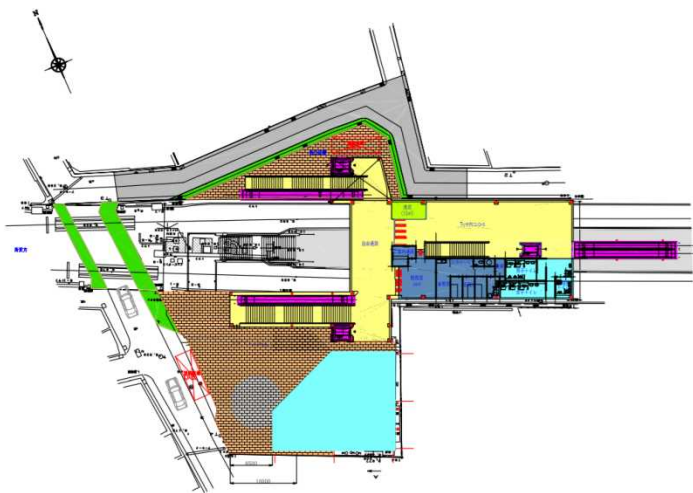




事例3(新宿線 野方駅)

『駅・まち一体改善事業』として国、中野区、西武鉄道が一体となり、駅舎の橋上化および南北自由通路を新設(2010年度)

併せて駅前広場や地元要望の強かった北口新設、駅バリアフリー化を実施(2016年乗降人員 24,441人)

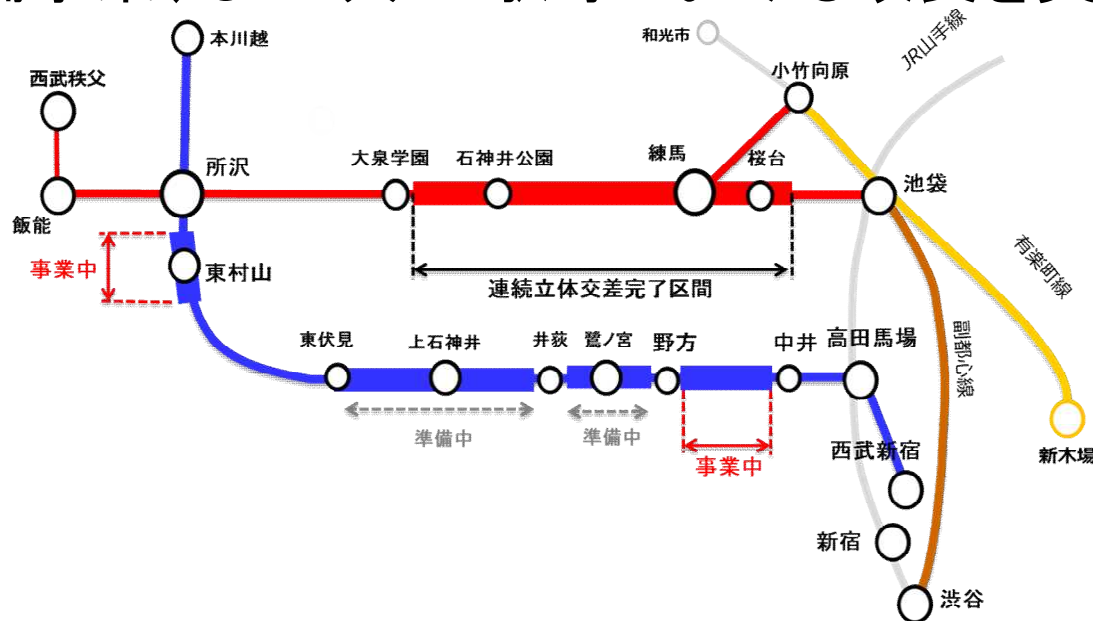




西武鉄道

事業中その他

良好な沿線づくりを目指し、新宿線中井～野方間、東村山駅付近の2ヶ所で連続立体交差事業を実施中。また西武新宿駅、本川越駅、飯能駅、西武秩父駅での駅リニューアルや沿線自治体との協働で所沢駅周辺整備事業、ひばりヶ丘駅等における改良を実施中。





事業中(所沢駅周辺)

駅と商業施設からなる複合施設「所沢駅東口駅ビル計画」を実施。
新たな改札を設けることで、駅・商業施設を含めた利便性を向上。
2018年春Ⅰ期開業、2020年夏Ⅱ期開業予定。

所沢市、当社にて「所沢駅西口土地区画整理事業」を推進。





西武鉄道

事業完了（西武秩父駅）

秩父エリアのブランド力向上を図り、西武秩父駅リニューアル工事を実施。観光者や地元の方々に愛される駅を目指すとともに、お客さまの利便性、快適性を向上。

駅舎外装デザインは西武秩父駅に隣接する複合型温泉施設「西武秩父駅前温泉 祭の湯」のデザインと一体感を持たせた。
2017年3月事業完了。



Seibu Group
でかける人を、ほほえむ人へ。



事例（沿線自治体との連携協定）

埼玉県西部地域まちづくり協議会（所沢市、飯能市、狭山市、入間市）と連携協定を締結（2013年4月）





事例（沿線自治体との連携協定）

- ・65歳以上シニアの外出機会創出等を目的とした下記社会実験を実施（2014年5月）
 - ・4市内、西武鉄道・西武バスを1ヶ月間5千円で乗り放題
- ⇒160人実験参加（アンケート⇒外出機会・目的等の増加）





西武鉄道

公共交通空間をどう作っていくか

- ① 今後の社会状況の変化（人口減少、少子化、高齢化、人材の多様化、自動運転等の新たな交通モード・・・）
- ② 地域の実情にあった街づくりや公共交通のあるべき姿について関係者間で共有（自治体・事業者・住民）
- ③ 役割や立場に応じて、単独または協働で実現

※関係者だけの協議調整は？・・・リーダーシップ、契機、第三者等

- ・地域公共交通網形成計画（交通対策基本法）
- ・産官学の連携による協議会
- ・連続立体交差事業、再開発
- ・観光施策、商店街との連携 等々